

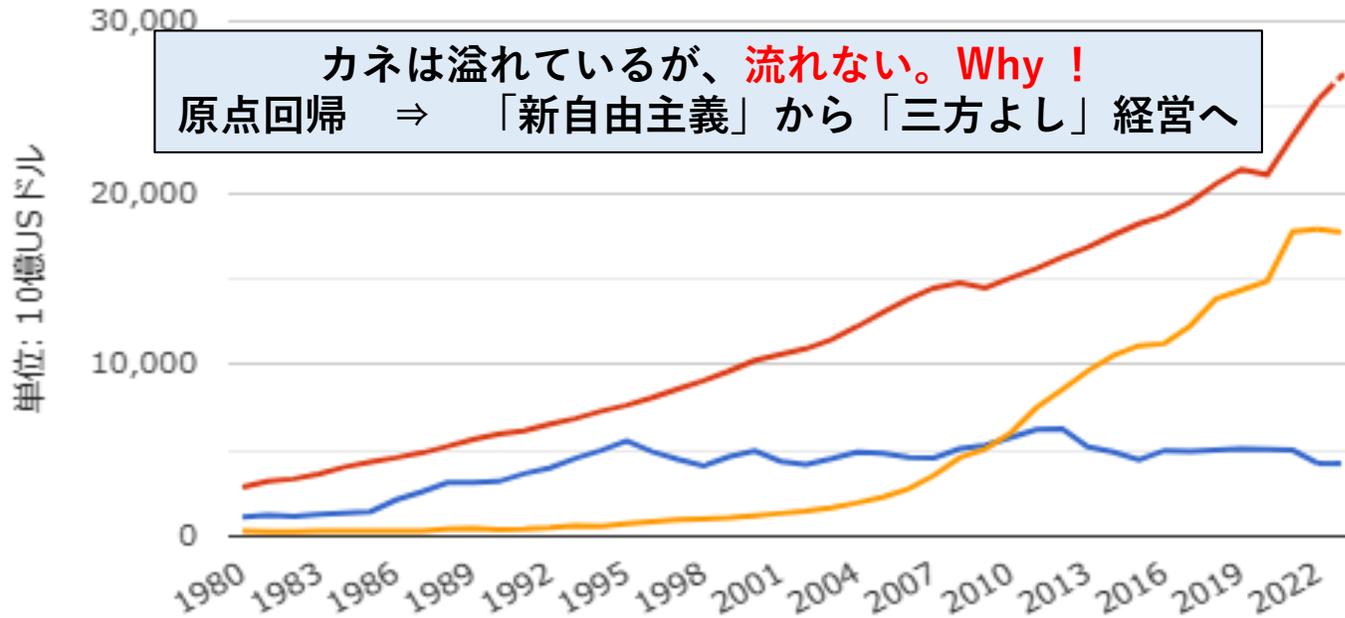
「文理融合・創造型実学」用教材

政策提言：ポスト・コロナ期の「デフレ突破策」と「デジタル化」 ～「カネの流れ（資金循環速度）10倍速」作戦～

一般社団法人 SCCC・リアルタイム経営推進協議会（兼子・河田）

名目GDP(USドル)の推移(1980～2023年)

— 日本 — アメリカ — 中国



カネは溢れているが、**流れない。Why!**
原点回帰 ⇒ 「新自由主義」から「三方よし」経営へ

官民に問われる

ポスト・コロナ期のパラダイムシフト !

政策提言 :

長期デフレからの脱出は「**速度生産性**」で
アベノミクスの復活

第二の矢 積極財政

第三の矢 成長戦略 (SCCC)

岸田ビジョンの具体化

: 「新自由主義からの脱却」

「新しい資本主義」

官民の盲点：資金循環速度
(SCCC) 支払いはより早く

進化指標 SCCC

(supply Chain Cash Conversion Cycle)

SCCC (サプライチェーン資金循環速度)

= 棚卸資産回転日数 + 売上債権回転日数 + 仕入債務回転日数

= 棚卸資産 / 売上原価 × 365 + 売上債権 / 売上高 × 365

+ 仕入債務 / 売上原価 × 365

- ◎ モノとカネの流れ つまりリードタイムを日数で表現した値。少ないほどよい。
- ◎ SCCCは「進化指標」。: 昨日より今日、今日より明日と、究極値ゼロを目指して良くなり続けるべきKPI

製造業全体	仕入債務	棚卸資産	受取債権	SCCC
日本	66	74	85	225
ドイツ	54	120	50	224

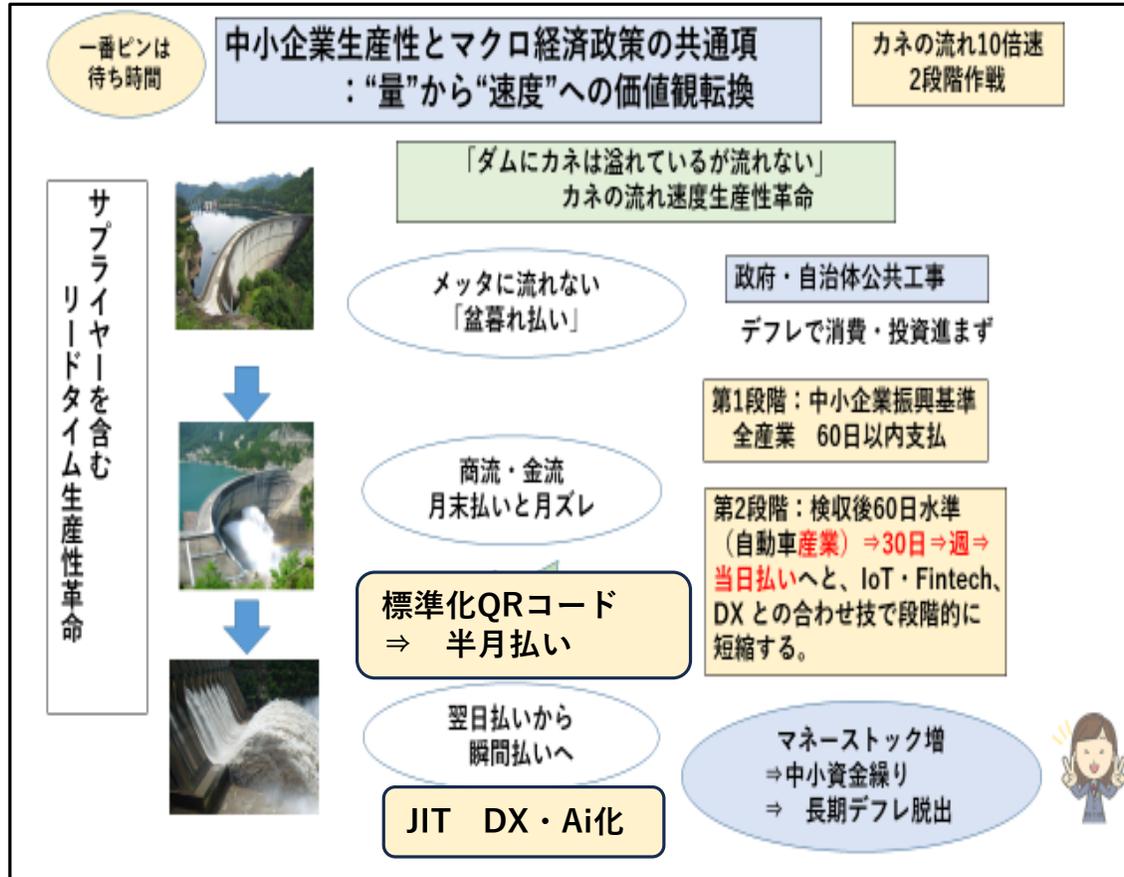
(出所: 「FinTech 導入による地域企業の収益力向上度測定指標の在り方に関する調査検討事業調査報告書 (TDB 2018.3より筆者編集。)

風評: 「日本製品は、品質はよいが支払条件よくないので、発注は要注意！」



速度生産性(カネの流れ10倍速)マクロ経済効果

資金循環速度 (S C C C)



総括表 (2014-2016平均)				
	①	②	③	①+②+③
(2014-2016平均)	受取債権	仕入債務	棚卸資産	SCCC 日数
自動車				
トヨタ	28.0	40.2	34.6	102.9
日産	25.5	57.9	47.7	131.2
本田	54.6	43.3	52.4	150.3
マツダ	23.3	55.8	55.1	134.1
重電				
日立	100.9	68.8	69.7	239.3
東芝	83.1	86.5	66.8	236.3
三菱電機	87.7	92.2	77.9	257.7
ゼネコン				
鹿島	120.5	96.4	110.6	317.9
大成建設	10.06	96.2	140	337.9
清水建設	113.3	98.2	105.9	317.7
重工業				
三菱重工業	113.8	98.3	147.2	359.2
川崎重工業	103.2	95.6	152.0	350.8
住友重機械	105.5	93.1	105.9	304.5

流れ改善をマクロ経済効果に読み替えるロジック
 : 「SCCC1割短縮 → 資金回転増 → マネーストック増 → 名目GDP増55兆円/年」

項目	備考	現在値	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
① BtoB 資金循環速度 (SCCC)	半減日数5年間で均等割	225	203	180	158	135	113
② 回転率 換算	回転率/年 5年間で倍	1.6	1.8	2.0	2.3	2.7	3.2
③ マネーストック (M2)	初期値 1000兆円	1,000	1,100	1,246	1,358	1,520	1,812
④ 付加価値 (GDP) 前提 55%	名目GDP' = ③ × 55%	550	605	685	747	836	997
⑤ GDP増分			55	81	62	89	161

提唱：財投効率 $F = \Delta GDP (量) / \Delta \Sigma S C C C (速度)$
 (PB プライマリーバランスの自動消滅)

主旨：“プライマリーバランス”の主張する「財政のムリ、ムダ防止」を、分母の $\Sigma S C C C$ の「速度」で担保しながら分子のカネの「量」的成長を測定する“進化指標”。

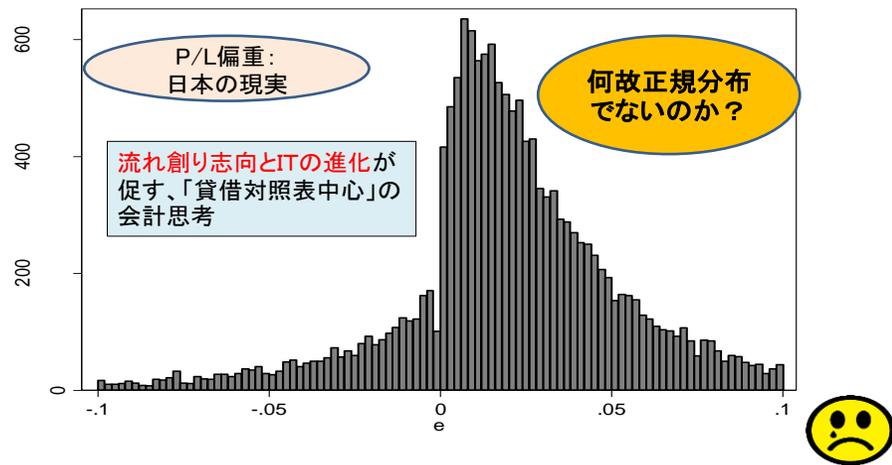
⑤ ポスト・コロナ期の流れ創り（JIT）本社力養成 ⇒ 「文理融合・創造型実学」

反省力： 新自由主義 / 市場原理主義の帰結

《日本の失敗》

《米国の失敗》

当期利益のヒストグラム
(連結,2000年3月 - 2007年3月) 一、二部上場企業



○ 株主価値経営と短期利益思考 (P/L,ROEの一人歩きリスク)

「現実には、アメリカ人はますます**損益計算書における報告利益**だけに関心を持つようになった。多くの場合、市場は短期の今日現在のボトムラインに焦点をあてた。そして、役員の報酬を(ストックオプション制度によって)株価と連動させることで、彼らはいっそう**今日現在の利益に対する関心を強め、会社の長期的な成果を高めようというインセンティブは失っていった**」

<Stiglitz, J. (2004), The Roaring nineties-why we're paying the price for the greediest decade in history, Penguin Books >

失敗との向き合い方：
(JIT促進型KPIなど) 本社会計の再構築 (“P/L脳”から”B/S脳”への転換) と
「流れ創りDX・AI化」の連携

見えてきた！中小企業の「短期」IT導入成功」の三条件



アマゾン：Kindle 版電子書籍 ¥1,056

ESD21 持続可能なモノづくり・人づくり支援協会
(一社)SCCC・リアルタイム経営推進協議会

条件付きJIT導入容易説

条件その1: CEOとCFOが流れ創りに本気になること。(君子豹変)

条件その2: 「小ロット化によるリードタイムの短縮が、まとめ作り、早目づくりより得である」ことを、(10年でなく)半日で悟る(紙飛行機折りゲーム)

条件その3: 本社力
現場を「利益」ではなくプロセスの“垢すり”改善を重視するKPI設計 (利益率より回転率、NCTR, SCCC)

生産性の奇跡！「年内リードタイム30%短縮」が、むしろ中小企業で実現可能！(例マレーシア)。